

令和5年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造性に富み、心豊かな、たくましい人間の育成を図る。 ・地域に根ざし、地域に愛される「地元の高校」を目指し、学力の向上と調和のとれた人格の形成を図る。 <p>1 学力の向上と希望進路の実現</p> <p>2 学習と部活動の高いレベルでの両立</p> <p>3 「探究活動と研究の桂」の推進</p> <p>4 生徒の自主活動の推進</p> <p>5 地域連携や地域貢献のさらなる充実</p>	<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近隣の小中学校をはじめ、大学や民間機関等との連携において効果的な学習成果と地域貢献を果たすことができた。 2 専門学科では、TAFSの研究活動を軸に各種コンテストにおいて高い評価を受けた。普通科では研究コースにおけるKRPを軸とし、探究活動を確立・推進することができた。 3 本校の特色や教育活動が、地元や中学生等に一定の理解が進み、選ばれる学校の一つとして認識されている。 <p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「自主・自律」の校風のもと、自ら学び、自ら考え、主体的に活動できる生徒の育成 2 専門学科の将来を見据えた教育改革と普通科のコース改編による教育効果の向上 3 学習指導要領の改訂を踏まえた「授業改善」「3観点別評価に向けた定期考査等の改善」「評価システムの見直し、構築」 4 学校ICTの有効的な活用と情報リテラシーの推進 	<p>1 特色ある学校づくりの推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校の特色や魅力を、中学生とその保護者、地域住民に発信と、小中学校を含めた地域連携・地域貢献の充実 (2) 普通科におけるコース改編による着実な成果と、専門学科における農場圃場・実習棟の環境を生かした研究と教育内容の充実 <p>2 学習、進路指導</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会と自己を結びつけた主体的進路選択とその実現を図る指導の充実 (2) 年次進行の新学習指導要領の着実な実施とともに、新しい時代に応じた全教科及び総合的な探究の時間における探究的な学びの実践 (3) ICTを活用した授業とウェブ、一人一台端末を活用した学習指導の充実 (4) 文武両道の実現を念頭に置いた効果的な指導方法の研究及び環境の整備 <p>3 生徒指導</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 自主自律の精神のもと、基本的な生活習慣や規律ある学校生活の確立 (2) 生活態度や挨拶等の指導による、生徒の社会性を高める指導の推進 (3) 自己肯定感を高め、自主的・主体的活動や社会的視野を広める取組の推進と、生徒の「桂プライド」の醸成 <p>4 人権教育及び教育相談及び特別支援教育</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の人権意識の向上を図る指導の実施及び人権問題の解決に向けた資質・能力の育成 (2) いじめを未然に防止し、組織的に対応できる体制の確立 (3) 障害のある生徒への理解の促進と、合理的配慮に基づく対応の充実 <p>5 危機管理意識の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 安心・安全を最優先とした教育活動の実践 (2) 交通安全指導の充実

令和5年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価		成果と課題
組織・運営	◇各種会議の組織体制を整備し、各分掌の機能を活性化する。	◆各分掌部長は学校運営にあたって、校長の経営方針をよく理解し、本校の教育活動全般の活性化に向けて分掌を組織的に導き、一人ひとりの教職員が学校運営を担う意識をもち、教育活動にあたる。	1	B	B	・分掌部長を中心に、校長の経営方針に従った学校運営を行うことができた。スクールポリシー検討委員会を立ち上げ、全教職員によるスクールポリシーに関する研修会を行うことで、本校の魅力や課題を共有することができた。 ・専門学科のさまざまな取組やホームページ・SNSを通じて、本校の魅力を発信することができた。また、保護者に対しては、WEB配信も用いて情報発信を行ったが、専門学科と比較すると、普通科の情報発信が十分とは言えなかった。 ・情報教育推進会議や、エバンジェリストを中心とした教員相互の研修会によって、1人1台端末の利活用をさらに進めることができた。今後は効果的なICTの活用について、さらに研究を進める必要がある。 ・新学習指導要領に基づいた授業実践を行うために公開・研究授業週間を活用し、教員相互の学びの場を設定した。
	◇地域の信頼を高める学校づくりを行う。	◆専門学科、部活動、学習活動等の教育活動を、地域及び在校生保護者へ積極的な情報発信を行い、本校への理解をさらに深める。	2	B	B	
	◇専門学科、普通科の特色化を進める。	◆専門学科、普通科新コースの教育内容の検証・研究を組織的に進めていく。	3	B	B	
	◇新学習指導要領の着実な実施を組織的に遂行する。	◆教科主任会議をはじめ、各種会議等を組織的に連動させることにより、新学習指導要領に基づく指導を着実に実践する。	4	B	B	
	◇ICTの効果的な活用の推進	◆TAFSと総合的な探究の時間の実績をもとに、教科における探究活動等を推進する。	5	B	B	
学習指導	◇「よりよい授業」構築のため、教科指導力を向上させ、生徒の学力充実に繋げる。	◆「情報教育推進会議」を軸として、教職員のICTスキルの向上を目的とした校内研修の充実と一人一台端末の利活用および、ICTによる業務効率化を推進する。	6	B	B	・公開・研究授業週間を充実させるために教務部や教科主任会議等で協議・改善し、教科を越えて授業改善に向けての取組をすることができた。授業アンケートを実施し、授業改善に向けての材料とすることができた。 ・授業規律の確立については、年度当初に全教職員で内容を確認して指導をすることができた。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴って、授業内の取り決めについて整理した。 ・観点別評価については、教科主任へのアンケート等で実施についての調査を行い、改善に向けての足がかりとした。今後も3観点での観点別評価の実施方法や在り方について、反省を踏まえながら研究を進めていく必要がある。 ・科目選択については、昨年度と同様、学年部と連携をとり合い、混乱なく実施することができた。 ・昨年度から引き続き、すべての教科でICTを活用した授業展開の研究・実践をすることができた。情報教育推進会議主催の情報交換会を年間通して実施し、ICTを活用した主体的・
	◇希望進路の実現につながるよう学力を向上させる。	◆公開・研究授業週間を年2回実施し、授業アンケートの結果等も踏まえて、教員全員が授業力の向上のため研鑽する。	7	B	B	
		◆授業規律の確立について、全教職員が共通の意識を持ち一致した指導を行うことによって、生徒が集団として学習意欲を持って授業に取り組める基礎を作る。	8	B	B	
		◆新学習指導要領における観点別評価について、昨年度の結果を振り返り、改善を進める。	9	B	B	
	◇教科に対する興味と学習意欲を高め、学力を向上させる。	◆各分掌や各教科において生徒の学力の向上と希望進路の実現に向けて創意工夫を重ねるとともに情報を共有し組織的に取り組む。教科主任会議のさらなる活性を図る。	10	B	B	
◆生徒がコース選択・科目選択を適切に行えるよう、担任及び関係分掌と連携を取り合い生徒と保護者に対してわかりやすくて確かな説明をする。		11	B	B		
◆教科に対する興味と学習意欲が高められるような授業展開（ICTを活用した授業、主体的・対話的で深い学びとなる授業）を学校全体で研究・実践・情報共有し、各教員が新学習指導要領にそった授業展開となるように工夫をすることで、生徒の学力と満足感の一層の向上を図る。	12	B	B			
◆学習強化週間（年間計10週間）を定期考査毎に実施し、						

		<p>自学自習・自主自律を基本とした学習習慣を身につけさせる。</p> <p>◆各学年で、生徒の実態を踏まえ、進路希望に応じた行事を開催し、教科指導と連携しつつ学習意欲を高める。</p>	13	B			対話的で深い学びとなる授業について実践報告や意見交換を行った。	
			14	B				
生徒指導	◇生徒指導の現状と課題について、教職員の共通理解を深め、基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	◆日常の生活指導の状況や課題について学年部をはじめ、教職員全体で共通認識が持てるよう、連絡・発信、相談を徹底する。	15	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・服装、頭髪、遅刻、交通安全指導を年間を通して実施した。交通安全指導については全教職員体制で登校時におこない、一定の成果を得た。遅刻指導については同じ生徒の遅刻が重なり、怠慢だけではない生徒個人に応じた関わり方や家庭との連携が求められ、学年部との連携による柔軟な対応が求められると感じた。服装および頭髪については日常的に教職員全体で取り組むような体制とともに基準の見直しなどの必要性も検討する余地があると感じた。 	
		◆学年部をはじめ教職員全体で連携して、服装・頭髪指導、遅刻指導、交通安全指導にあたる。	16	C				
特別活動等	◇生徒会を中心にリーダーを育成し、生徒の自主性を育む。	◆生徒会が学校生活のさまざまな面でリーダー性を発揮できるように、生徒指導部を中心に適切な指導を行う。	17	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭および体育祭についてはほぼコロナ禍前の形態で実施することができ、さらに配信をなど、新型コロナウイルス感染対策として取り組んでいたものも継続して有効に利用することができた。学園祭のほかにもクリスマスコンサートなどの行事についても、生徒会および各種委員会が中心となって企画、運営することができ、生徒の自主的・主体的な活動を推進することができた。 	
		◆学園祭会議を通して、文化祭や体育祭をはじめ、様々な学校行事において全校生徒が自主的・主体的に活動できるようにする。	18	B				
	◇部活動と学習を両立させ、部活動や野外活動等で学ぶ集団行動や規範意識を生涯にわたる基礎とする。	◆部活動加入率の向上と活動内容のさらなる充実による学校全体の活性化を図る。	19	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率は全校で69%と70%を下回ることであった。また、女子運動部加入率も今年度は減少傾向となった。 ・野外活動や研修旅行では各学年の生徒の様子や活動目標に応じた行程および活動内容を計画、準備し、充実した活動を実施することができた。 	
◆野外活動や研修旅行の教育的意義を十分に理解させ、集団行動のなかで社会性を養う。			20	B				
進路指導	◇生涯を見通した進路選択のための適切な指導と援助を行う。	◆普通科新コースの3年間の進路指導計画を策定し、適切な時期に的確な資料・情報を提供する。また、個に応じた指導を重視する。	21	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部との連携を図り、進路情報を共有した。 ・進路行事等も計画段階から学年部と連携し、効果的なものにすることができた。 ・大学等の情報を担任・生徒により的確に伝えるために、進路だより等を工夫して発信する必要がある。 ・就職指導では、講座を通して丁寧に対応することができた。2年次のインターンシップ実施に向けて検討する必要がある。 	
			◆就職希望者のために説明会やガイダンス等を実施し生徒の希望の進路を実現させる。	22				B
			◆生徒の実態に即した進路補習計画（平日補習・長期休業中補習）を効率的に運用するとともに、模擬試験や実力テストを積極的に受験させ活用し、大学入試等に対応できるようにする。	23				B

報 ・ 事 報 ・ 事 務	取組を実施する。	本校の学校経営の重点や普通科新コースの情報を伝え、より一層の桂の教育を発展させる。				B	・保護者アンケートを実施し、本校の課題や保護者からの要望について教職員で共有した。 ・保護者や学校運営協議会からの意見に真摯に耳をかたむけ、普通教室等空調更新・4棟トイレ一部洋式化・1棟外壁塗装等施設の整備を行った。
	◇外部評価を積極的に取り入れ、学校改善に生かす。	◆保護者・P T A・学校運営協議会との連携を深めるとともに、中学生が本校に期待し、求めるものを十分に把握し、外部評価に対し改善すべきものは迅速に対応する。	34	B	B		
	◇学校施設の改修及び多面的な学習環境の整備を行っていく。	◆本校教育活動の円滑な推進及び生徒の安心・安全を第一に学校施設の改善と効率的な活用を考え、整備していく。	35	B	B		
研 究 ・ 開 発	◇農業・環境のスペシャリスト育成を目指し研究開発に取り組む。	◆T A F S (Training in Agriculture for Future Specialists) プログラムを深化させ、地域や社会の健全で持続的な発展を担うスペシャリストを育成する教育課程の研究開発に取り組む。	36	B	B	B	・様々な研究活動を通して、地域や社会が抱える諸問題を解決しようとする力を養い、実践的に取り組んでいる一方で、力をもてあましている状況も見られた。 ・新しい施設設備の活用とともに、生産性の向上と充実した教育活動が可能となり、地域とのかかわりもより深いものとなった。各種大会などにおいても成果をあげた。 ・スマート農業の導入や時代に則した先進的な学科のあり方については今後の課題として残るが、地域社会とつながる発展的な取組は進んでおり、貢献度も大きなものとなっている。 ・普通科と専門学科での合同発表会を持つことでお互いの研究活動について理解を深めることができたが、交流する機会を増やすことでさらなる研究力の向上、スキルアップを図りたい。
	◇専門科目の授業、教科指導の充実・発展に取り組む。	◆新しい施設・設備を有効に活用し、T A F S や専門学科の教科指導、フィールド科学実習、農業クラブ活動の中で主体的・対話的で深い学びを通して専門性を高め、地域社会と協働的に取り組む態度を養い、社会で活躍できる生徒の育成に努める。 ◆専門学科の将来構想の方向性と観点別評価やICTの活用などの先進的な実践を通して、新しい時代に合わせた専門学科の在り方を検討する。	37	B	B		
	◇学校全体で研究・探究活動を推進する。	◆専門学科のT A F S と普通科のK R P (Katsura Research Project) や総合的な探究の時間との連携を含め、桂高校全体として研究・探究活動をさらに推進する。	38	B	B		
			39	B	B		

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の加入率が低下しているとのことだが、部活動に加入していない生徒の充実度についても目を向けることが大切である。部活動以外の活動に力を入れている生徒もいる。 ・希望進路の実現と言っても、在学中に進路希望をブラッシュアップしたのか、グレードダウンしたのかでは大きく異なる。そのことについて考え続けることが、学校、教員の矜持である。 ・高校生が地域の課題について研究することは意義がある。今後はさらにアウトプットの機会を増やし、研究の醸成を図ることが必要である。
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信は必要だが、働き方改革の観点からも人手を割くのではなく、今行っている授業体験やオープンスクールの機会を活用し、効果的な発信を心がける。 ・希望進路の実現においては、生徒の希望をグレードダウンさせるのではなく、キャリア教育等をとおして、進路希望をブラッシュアップさせる指導を行う。 ・1人1台学習用端末の管理制限緩和に伴い、自立的にデジタル社会を生き抜くために、デジタル・シティズンシップ教育に力を入れる。 ・普通科の探究活動においても、アウトプットの機会を増やし、研究の醸成を図る。
---------------	---